



第2章 環の拠点創出事業準備委員会の検討内容



2-1 拠点施設に関すること

2-1-1 拠点施設の選定、設置方法

本事業の検討にあたり、自転車道の起終点である泉大橋南詰から近く、また上粕南部地域の茶問屋街の玄関口となる拠点施設を検討した。

施設名	京都やましろ農業協同組合倉庫
地番	木津川市山城町上粕北的場15番地
面積	約165㎡
所有者	京都やましろ農業協同組合
使用者	木津川市山城町商工会
施設整備者	木津川市

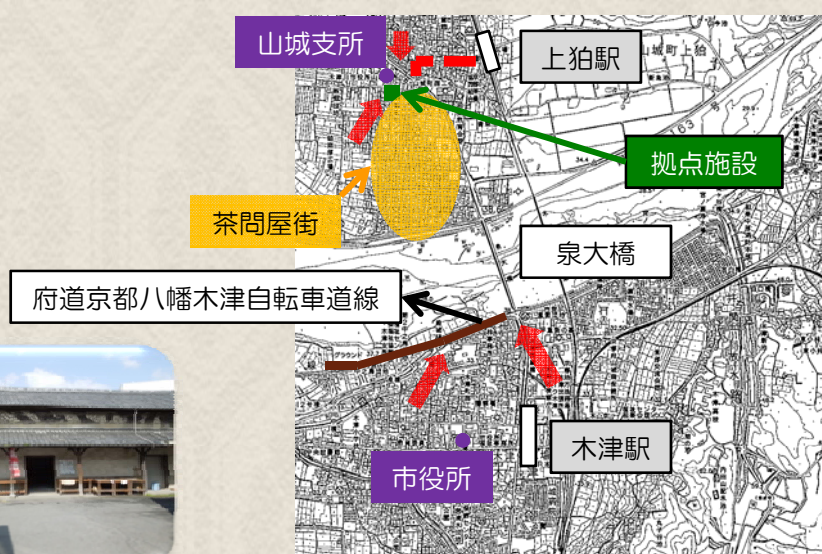
施設の評価

①立地位置としての評価

- ・国道24号にほぼ隣接しており、JR上粕駅からも約400mの位置に立地していることから、**観光誘客面からも利便性が高く、茶問屋街の玄関口として活用**できる。
- ・上粕地域の中心であり、現在も山城支所庁舎等の公共的施設が隣接しており、複合的な施設の利用が可能である。
- ・近年の健康やエコ志向に基づくサイクリングブームにより、自転車愛好家の利用が増加している**府道京都八幡木津自転車道の起終点である泉大橋から、北へ約1,300mの近距離に立地**している。
- ・施設周辺には、自転車愛好家からもニーズの高い、コンビニエンスストア及び飲食店が既に立地しており、周辺には自動販売機等も多く設置されている。

②建築物としての評価

- ・**茶問屋街の趣旨に適合した歴史的な伝統的木造建築**である。
- ・建築基準法上も現在の雰囲気を残した改修等が可能である。



【拠点施設位置】

2-1-2 拠点施設の配置

拠点施設の配置等については、次のとおり整備イメージを検討した。

施設内部イメージ

施設の内部は、現存活用を基本として、2区画（それぞれ約45㎡程度の正方形【6.7m×6.7m】）を地元地域向け機能とサイクリスト向け機能として設置する。

施設周辺全体イメージ

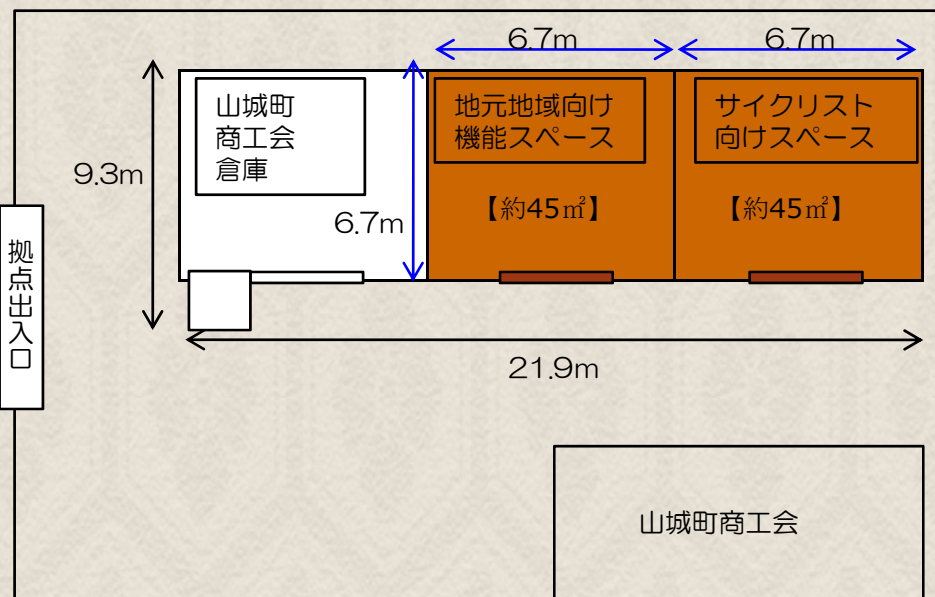
周辺施設に配慮しながら訪問者等が、わかりやすく移動できるような整備を行う。



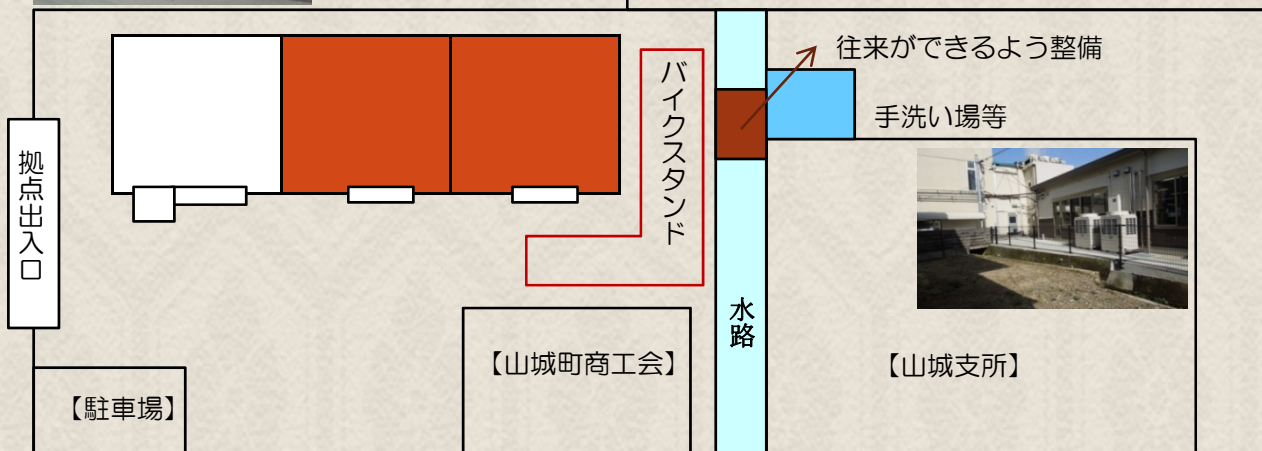
【全景】



【内部】



【施設内部の配置イメージ】



【施設全体のイメージ】

2-1-3 拠点施設への導入機能

導入機能については、地域交流・健康づくりの環に必要な機能を、またサイクリングの環については、自転車アンケートの調査結果を基に検討した。

基礎的機能

トイレ、駐車場、自動販売機（飲物）等

地域との交流向け機能

会話スペース（ベンチ）等

地域振興向け機能（地元PRコーナー）

地元野菜直売所、地元特産品販売所（展示含む）、観光案内マップ・看板（拠点施設周辺の歴史文化など）等

サイクリスト向け機能（サイクリスト支援コーナー）

バイクスタンド、スリッパ（サイクリストシューズ履き換え用）、水道設備（洗面及び手洗い・自転車洗車用）、サイクリスト用マップ、サイクリスト伝言掲示板、有料駐車場、サイクルピット、コインシャワー、レンタサイクル等



【自動販売機】



【ベンチ】



【バイクスタンド】

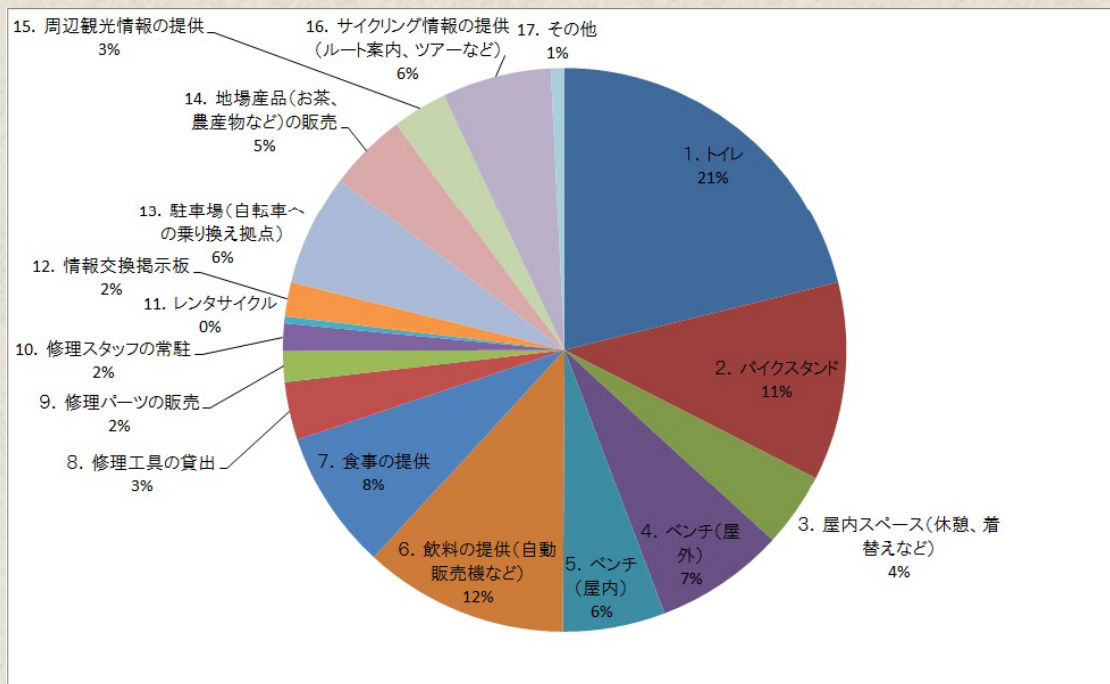


【農産物販売所】

自転車アンケートの調査結果（抜粋）

実施日：平成25年3月9日（土）
調査場所：上津屋橋、アスパアやましろ
調査人数：128人

問. 拠点施設の機能として、何が特に必要と思いますか。



2-1-4 拠点施設の整備方針

不特定多数を集客する公共施設として、建築基準法やバリアフリー法等を考慮し、安全な施設としての整備を図るものとする。

詳細

本施設整備については、建築基準法の建築確認申請の対象ではないが、不特定多数の利用者が想定されることから、建築基準法、バリアフリー法を順守した上で、整備を進めるべきである。

なお、現状においては、以下の改築等の検討が必要である。

- ・ 耐震調査結果に基づく改築
- ・ 自然採光窓の設置（床面積1/20以上の窓）
- ・ 排煙窓の設置（床面積1/50以上の排煙窓）
- ・ 外壁・軒裏の防火構造対策



【排煙窓イメージ】

2-1-5 拠点施設及び周辺への配慮点

拠点施設への安全な誘導と交通事故防止対策

- ・ 泉大橋（京都八幡木津自転車道線終点）からのサイン等による安全誘導
- ・ 自転車による交通事故防止対策（道路整備・注意喚起）

詳細

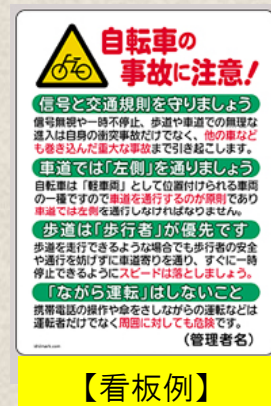
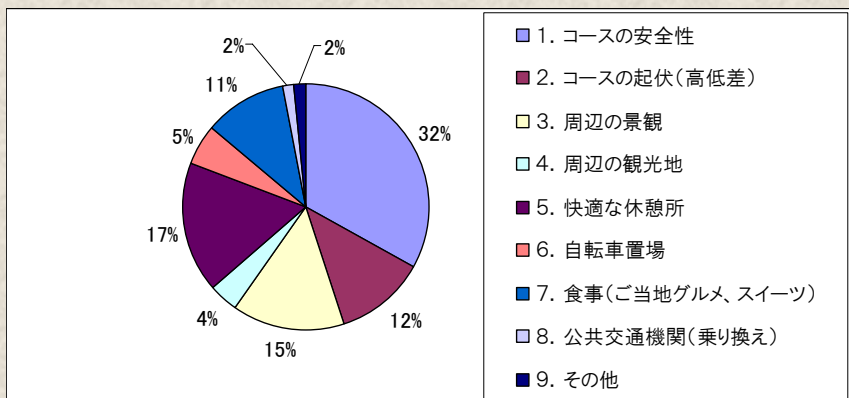
自転車アンケートの調査結果のとおり、サイクリストの立場から拠点施設への自転車による移動アクセスが安全、かつ、容易でなければ、多くの方の訪問を期待することができない。泉大橋から拠点施設まで、一般道路（通学路を含む日常生活道路）を通行することとなることから、自転車による交通事故防止対策に万全を期すためにも、**管轄の木津警察署や道路管理者から交通に関する助言等を得ておく必要がある。**

また、周辺にはサイクリストがゆっくり走行いただけるような啓発看板を設置するほか、拠点施設やショップの案内看板などを設置する必要がある。

自転車アンケートの調査結果（抜粋）

実施日：平成25年3月9日（土）
調査場所：上津屋橋、アスパアやましろ
調査人数：128人

問. サイクリングコースを考える上で重視していることは何ですか。



【看板例】

2-2 事業運営に関すること

2-2-1 運営の主体

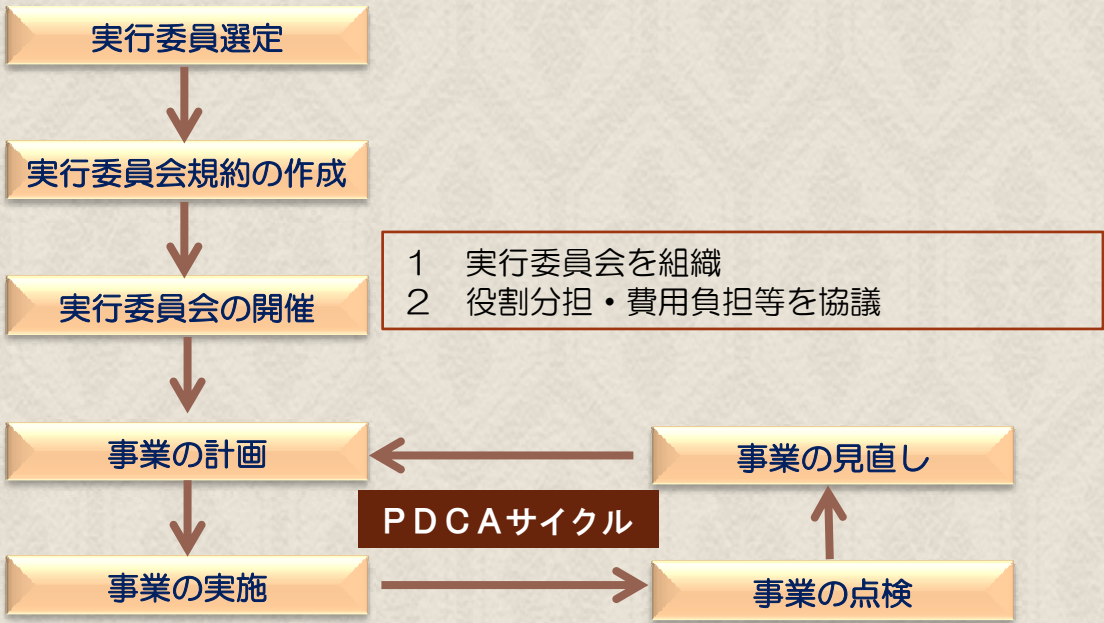
実行委員会方式とし、市は、各種団体へ設置及び参画の協力依頼に努める。
地域団体及び公共的団体等が、新しい一つの組織（【仮称】環の拠点実行委員会）を立ち上げ、事業を展開する。

実行委員会方式のメリット

運営主体	メリット
実行委員会	①企画段階から、各主体の意見を議論し、事業を実施することで、適切なパートナーシップを築くことができる。 ②各参加団体に協力いただくことで、それぞれの団体が持っている情報やノウハウ、人的パワーなどを活用することができ、市民ニーズに即した企画や、より規模の大きなイベントの実施が可能となり、幅広い参加が期待できる。

実行委員会方式の流れ

事業の実施状況を確認し、計画(P l a n)→実施(D o)→点検(C h e c k)→見直し(A c t)のプロセスを繰り返し行う、PDCAサイクルにより、事業の達成状況などを管理します。



2-2-2 広報戦略

茶間屋街等を題材として、あらゆる媒体を活用しながら丁寧に周知していくこととする。

①広報誌及び案内サイン等による周知

観光関連パンフレット、市広報誌、市及び木津川市観光協会ホームページ、報道機関や自転車書籍への情報提供及び当施設イベントチラシ、案内サイン等

②クチコミ等による周知

各種団体からのクチコミ発信、サイクリストの伝言板等の活用、地元地域や各種団体への直接出前説明等

③電子媒体を活用した周知

事業運営主体のホームページ、ブログ、フェイスブック、ツイッター等



【市広報誌】



【観光パンフレット】



【市ホームページ】



【木津川市観光協会
ホームページ】



【ツイッター】



【フェイスブック】

2-2-3 設置及び運営財源

設置及び運営財源

当該施設の改築費用や案内サイン等の初期整備財源、及び本事業が軌道に乗るまでの事業運営財源は、木津川市が市民協働事業としての運営財源等が対象となるような国及び府の補助金等を活用して確保するものとする。

また、市は開設後の利便性向上や改善に向けた施設整備についても、補助金等を活用できるように対応するなど、補助金制度の研究等について中心的な役割を担っていくことが望ましい。

2-3 事業内容に関すること

2-3-1 期待される取組み内容

本事業は地元地域活性化のため、及びサイクリストなどの誘客のための双方からの視点による取組みをおこなう必要がある。

また、地元地域活性化のために、地域の住民が交流を深め、拠点施設を盛り上げるための取組みをおこない、サイクリストなどを迎えることとして、市民がおもてなしをおこなうことが期待される。

このことから、本事業に関係する団体の会員・組合員、地元住民などで、ワークショップをおこない、次のとおり取組み内容を取りまとめた。

	期待される取組み内容等
全般的な拠点施設に関すること	拠点施設のPR活動 各団体のイベント会場としての活用
地元地域に関すること	各種サークルの紹介と交流活動 老人クラブ等の地域活動
農業に関すること	地元野菜・農産物の朝市販売 規格外農産物等の低価格販売 ぶどう生産組合の活用
商工に関すること	地域特産品(※)の開発・販売・展示 弁当(地域特産品使用)の販売 拠点カフェの設置
観光に関すること	観光モデルコースの検討 ・季節毎のみどころ案内 ・文化財の紹介 ・山城名所巡り 観光マップの作成 スタンプラリーの実施 木津川市マスコットキャラクター(いづみ姫)の活用
茶業に関すること	お茶の淹れ方講座の実施 お茶の販売・提供サービス 茶問屋・お茶の歴史等の紙芝居
サイクリングに関すること	サイクリスト講習会の実施 ツーリングイベント等の企画 修理店舗の案内 サイクリングコースの新設・案内 サイクリングマナーの案内・発信 電動アシスト付き自転車レンタル

※地域特産品：タケノコ焼酎、タケノコバーガー、タケノコまんじゅう等